

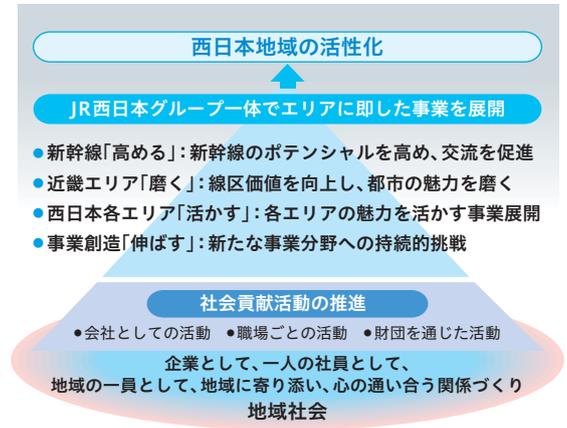
地域との共生

社会に提供する価値

- 住みたくなる、行きたくなる沿線づくり
- 鉄道の強みを活かし、地域と一体となった観光振興
- 地域と連携し、エリアに即した事業展開による地域の活性化



■ 地域との共生 全体像



Plan

〈近畿エリア〉線区価値を向上し、都市の魅力を磨く

Do

鉄道を中心とした「住みたくなる」沿線づくりや、「行ってみたい」「乗ってみたい」と思ってもらえるような線区づくりに取り組んでいます。2013年度も、自治体と連携し、エリア毎の特色を活かしながら、駅改良や生活関連サービスの充実により線区価値を向上させる取り組みを進めました。2012年度から包括的連携協定*1を締結している滋賀県においては、協定に掲げた「子育て支援」の一環として大津駅に「認定こども園」が開園しました。また、奈良県との間でも、地域と鉄道が相互に持続的に発展していくことを目的として、2013年10月に包括的連携協定を締結しました。

一方、京阪神エリアの魅力的な情報をウェブサイトやスマートフォンアプリで発信するなど、「都市型観光」にも力を入れています。さらに、大阪環状線を重点線区と位置づけ、駅改良や車両の更新、高架下開発などにより魅力向上を図るプロジェクトを進めています。

※大阪環状線の取り組みについては特集11Pをご覧ください。



大津駅に認定こども園が開園



摂津本山駅のバリアフリー化が完成し、JR神戸線全駅にエレベーターの設置を完了

子育て世代が利用しやすい「こどもトイレ」を設置



奈良県と包括的連携協定を締結



向日町駅のご線橋*2とバリアフリー化が完成



大阪環状線玉造駅に「ピエラ玉造」が開業



WEBマガジン「マイ・フェアリット関西」で都市としての魅力を発信

用語解説

- *1 包括的連携協定: 相互に発展することを目的として、自治体・企業などがさまざまな分野で連携し協力することを包括的に定める協定
- *2 ご線橋: 駅本屋からホームへお客様を導く通路が、線路を横断する場合に設けられる駅構内の橋

基本的な考え方

鉄道を核に事業を営むJR西日本グループは、地域を離れては存在し得ません。推進中の「中期経営計画」においても「ありたい姿」として「地域共生企業」となることを掲げています。

そのためには、各エリアにおいて地域の皆様との対話を重ね、地域の課題やニーズを共有しながら、地域としての「ありたい姿」を一緒になって模索していくことが大切だと考えています。そのうえで、駅周辺整備や観光誘客、地域交通、エリアに根ざしたビジネスの展開などにおいて、自治体や地元企業などとの連携を深め、地域とWIN-WINの関係を構築することを通じて、長期持続的に成長する「エリア経営」の実現をめざしています。

また、社会貢献活動の分野においても、各エリアで鉄道をはじめ

めとする事業活動とつながりの深い活動を中心に、地域との交流など職場レベルでの取り組みを続けています。さらに今後は、地域が抱える課題に対し当社グループの強みを活かして解決に貢献する取り組みにも力を入れていきたいと考えています。

当社グループが将来にわたり地域とともに成長し続けるために、地域に根ざした取り組みを確実に積み重ね、西日本地域の活性化に貢献していきます。

推進責任者

常務執行役員
総合企画本部長 緒方 文人



Highlight 鉄道文化の拠点が世代交替

交通科学博物館が52年の歴史に幕を下ろしました

1962年に開業し、1,800万人超の入館者を数えた交通科学博物館が、2014年4月、52年の歴史に幕を下ろしました。閉館間際には、館が所在する西九条駅管区が発起人となり、感謝イベント「環状線より、52年間の『ありがとう』をこめて」を開催し、来館された方々の最後の思い出づくりに貢献しました。

一方、2016年春には、京都梅小路エリアに新しい鉄道博物館が誕生します。現在、地域と歩む鉄道文化拠点をめざし、建設を推進しています。



閉館までのカウントダウンが始まると、閉館を惜しむたくさんの声がお客様から寄せられました。



「京都鉄道博物館」の完成イメージ



西九条駅長 榎原 敬二

地域の皆様と一体となって、当社だけではできないことを進めていきます

「長い間ご愛顧いただいた多くのお客様に何とか喜んでいただこう」との思いから、大阪環状線の各駅区所の若手社員が中心となって感謝イベントを企画、実行しました。ご来館いただいた多くのお客様の笑顔を見ることができ、最後の楽しい思い出づくりに貢献できたと思っています。

地域の皆様は当社にとってお客様でもあり、地域を盛り上げていくパートナーでもあり、良き理解者でもあります。今後も当社だけではできないことを、地域の皆様と一体となつてともに進めていきたいと思っています。

Plan

〈西日本各エリア〉各エリアの魅力を活かす事業の展開

Do

自治体や地元企業と連携し、それぞれのエリアの持つ魅力を活かす事業を展開しています。2013年度には、地域が抱える課題の解決に協働して取り組むことを目的として、鳥取県、島根県や地元企業と連携協定を締結したほか、協定に基づく施策の具体化を進めました。観光振興においては、地元と一体となってデスティネーションキャンペーン(DC)などの観光キャンペーンを推進しました。

合わせて、地域交通のおかれた現状や将来の姿を地域の皆様と共有し、次世代に向けた解決をめざす取り組みも進めています。

また、下関駅ビル「リビエ」の開業、リハビリデイサービス事業の広島・三原への展開など生活関連サービス事業の拡大を進め、地域の生活基盤の充足に取り組みました。



2014年秋の和歌山DCに向け、地元と一体となって準備



中国銀行との協力協定にもとづき「うまいもの市」を開催



2013年夏の広島DCで、多くの方々が瀬戸内の魅力を体験



大学生に北陸のすばらしさを発見・発信していただく「北陸カレッジ」を実施



島根県と社内のワーキンググループが観光の魅力づくりに関する政策を提案



下関駅に駅ビル「リビエ」が開業



リハビリデイサービス事業「ボシブル」JR広島駅東店を出店

Highlight 地域と連携した竹田城跡の観光開発

鉄道+バス+自治体の連携で交通渋滞を緩和 但馬エリア全体の活性化をめざします



福知山支社 営業課 蒲直樹

竹田城跡周辺の交通渋滞を緩和するため、2013年4月より特急「はまかぜ」を播但線竹田駅に臨時停車させるとともに、全但バス(株)に「天空バス」を運行していただき、多くのお客様にご利用いただきました。2014年度は京都方面からのアクセス改善のため和田山駅から「天空の城 竹田城跡号」を運行したほか、各自治体などと連携し「夢但馬キャンペーン」を開催するなど、但馬エリア全体の活性化をめざす取り組みを進めています。

竹田城跡付近での交通渋滞を緩和することができました。朝来市、JR、全但バスの三者はそれぞれ歯車のような存在です。一つひとつは小さな力ですが、三者がうまく噛み合うことで大きな力を発揮することができました。今後はこの動きを加速していければと考えています。

朝来市 産業経済部 竹田城課 池野 祐季 様



これまで、三者の関係はテーマ毎に限定的に関係を構築する「点」の連続でした。それが今では「線」になり、常に連携できるようになりました。今後は、駅と観光地をつなぐ周遊バス「たじまわる」などの施策により、竹田城跡だけでなく、但馬エリア全体を活性化していきたいです。

全但バス(株) 営業部 乗合事業課 課長 小坂 祐司 様



特急「はまかぜ」の臨時停車(播但線竹田駅)



「天空の城 竹田城跡号」の運行



竹田城跡への「天空バス」

竹田城跡の写真提供：吉田 利栄

Plan

社会貢献活動のさらなる充実

Do

地域とともに生きる企業として、地域の皆様と交流し、地域社会に貢献する活動に取り組んでいます。JR西日本あんしん社会財団*1では、安全で安心できる社会づくりに資するNPOなどへの助成を行うほか、救急救命の啓発活動などに取り組んでいます。各職場においても、地域イベントへの参加や安全教室、「旅育」など地域に根ざした活動を行っています。

※地域の伝統芸能を支援する取り組みについては特集12Pをご覧ください。



安全に鉄道をご利用いただくための安全教室を開催(京都支社)



新幹線の魅力を伝える「新幹線ふれあいデー」を開催(博多総合車両所)



子どもたちの健全な育成を支援するため学童軟式野球大会を主催



子どもたちの健全な育成を支援するため「旅育」*2を実施(岡山駅)

社外 から一言

「人と人がつながる 社会」をめざして

私たちは東日本大震災で被災した福島県内の子どもたちを春と夏に丹後にお招きし、大学生ボランティアと一緒に山登りなどのさまざまな活動を行っています。我々が大切にしている「人と人のつながり」という価値観が、JR西日本あんしん社会財団の掲げる「安全で安心できる社会」と一致したため、助成に応募しました。

活動を通じて、一方的に「助ける、助けられる」という関係ではなく、相互に「助け合う」対等な人間関係を構築し、人と人のつながりを感じられる社会にしていければと考えています。

特定非営利活動法人
たんご村 代表理事
町田 英司 様



青少年の交通徳の高揚を目的に「鉄道少年団」の活動を支援(徳山鉄道少年団)

Check

連携協定に基づく取り組みを具体化

「点」から「線」の関係へ発展させ、地域全体の活性化を推進

自治体や地元企業との連携協定については、島根県と当社の若手ワーキンググループからの提案など、具体的な動きが出てきました。大阪環状線のプロジェクトにおいても、地域と連携することで、これまで以上にお客様や地域にとって価値あるものを提供できるようになりました。

また、竹田城跡の事例のように、交通渋滞緩和に連携して取り組んだことを機に地域との関係が深まり、さらにテーマ毎の「点」から継続性のある「線」の関係へ発展し、地

域全体の活性化につながる取り組みが生まれました。

社会貢献活動においては、「地域伝統芸能フェスティバル」を初めて開催し、伝統文化の継承という地域が抱える課題に対し、当社グループの強みを活かし少しでもその解決を支援する取り組みを行うことができました。

引き続き、地域とともに長期持続的に成長する「エリア経営」の実現に向け、具体策を積み重ねていくことが重要な課題だと考えています。

Action

エリアの魅力を再発見・発信するとともに、 エリアの強みを活かした事業を具体化していきます

今後も引き続き自治体や地元企業との関係を深め、エリアに即した事業の展開を重ねていきます。

近畿エリアにおいては、お客様に繰り返しご利用いただける輸送品質の高い鉄道をつくとともに、大阪環状線や京都鉄道博物館などのプロジェクトを確実に進め、線区価値を高めていきます。

西日本各エリアにおいては、鉄道の強みを活かし地域と

一体となって観光振興を推進するとともに、北陸新幹線や新たな寝台列車などを最大限活用して、それぞれのエリアの持つ魅力を再発見・再評価し、発信していきます。

社会貢献活動については、各職場で地域に根ざした取り組みを継続することに加え、地域とともに地域の課題解決に貢献する取り組みにも力を入れていきます。

用語解説

*1 JR西日本あんしん社会財団：福知山線列車事故の反省に立ち、「安全で安心できる社会づくりの一端を担いたい」との思いから設立した公益財団法人
*2 旅育：小学生や幼稚園児を対象に駅見学や体験乗車などを組み合わせた課外学習プログラム